２０２１年5月１４日

自己点検・評価報告書

日本語教育機関名　：　愛心国際学院
実施担当者　　：　学院長　　原田　かおり
　　常務理事　高橋　秀作（前学院長）

本学院は、日本語教育機関告示基準第１条第１項第１８号に従い、教育の水準の向上を図り、日本語教育機関の目的を達成するため、年１回の自己点検・評価を行っている。なお、自己点検・評価を行う項目は「日本語教育機関の告示基準解釈指針」をもとにした。

各項目の評価方法は５段階評価とする。

５　：　達成している
４　：　ほぼ達成している
３　：　改善すべき点は多いが、取り組んでいる
２　：　取り組みを検討中
１　：　改善が必要

1	教育の理念・目標	評価
１－1	理念、目的・教育目標や育成する人材像が明確となっているか	5
１－2	理念、目的・教育目標や育成する人材像が社会のニーズに合致したものとなっているか	5
１－3	学校の特色を出すことができているか	4

理念・目的

愛心国際学院は、お互いの人格を尊重し、人間性豊かな「真心」の精神を理念とし、国際交流により相互理解を深め、世界に貢献することを目的としている。

教育目標

・学習者一人ひとりの目標達成のために必要な日本語能力を見極めて指導する。
・日本語学習を通じて、日本人の視点や考え方を知り、日本文化や現代社会等に対して理解を深める。

育成する人物像

・個々の民族、習慣、宗教を理解した上で異なる文化を尊重し、相互に協調して生きることができる。
・国際人としての視野を広め、将来の目標に向かって自信をもって自己実現をする。

【現状と課題】

本学院は、政府認可の特定非営利活動法人（NPO）の愛心国際社会交流協会が設立し、その目的である「国際交流により相互理解を深め、世界平和に貢献する」ため、日々努力をしている。国際社会において、個々の民族・習慣・宗教を理解し、異なる文化を尊重し、人類が相互に協調して生きることは社会のニーズに合致している。

本学院の特色は授業が能力別、かつ、少人数制で行われていることである。1 クラスの定員を 10 名前後に絞ることにより、学習者一人ひとりに目が行き届き、きめ細やかな対応ができる。少人数制クラスは学習効果が高く、教員側、学習者側からも喜ばれている。進学指導に関しても担任教員が提出書類の確認、試験の対策、面接練習等に時間をかけることができ、進学先の担当者からも評価が高く、学生達からも感謝されることが多い。これらは少人数制だからこそできることでもあるので、今後も大切にしていきたい。

これらの理念・目標はホームページ、パンフレットに書かれているが、教職員、学生への周知は徹底されていないのが現状であり、今後は周知にも力を入れたいと考えている。

また、「世界平和に貢献する」ため、今後は外国につながる子どもたちとその家族、介護・看護従事者等の日本語教育にも力を入れていく予定である。

2	機関運営	評価
2－1	理念や目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか	5
2－2	組織運営や、人事、財政管理に関する規定が整備されているか	4
2－3	意志決定システム、コンプライアンス体制が整備されているか	5

【現状と課題】

意思決定は会議において行われ、情報共有がなされている。正社員のみで行う会議、年2回の教員全体会議、クラス別会議があるが、昨年度秋、今年度春はコロナウイルス感染症予防のため全体会議は開けなかった。今後も同じような状況が続く場合はオンライン会議も考えたい。組織運営に関しては職務分掌にあいまいなところがある。教職員数が少ないため、職務を超えて協力しなければならないこともあるが、改善できる点もあると考えている。

3	教育活動	評価
3－1	教育理念に沿った教育課程が体系的に編成されているか	5
3－2	学生が到達すべき日本語能力の目標が明示されているか	5
3－3	成績評価や進級、修了の判断基準は明確となっているか	5
3－4	成績評価や進級、修了の判断基準は適切に運用されているか	5
3－5	教員の指導力向上のための取り組みが行われているか	4
3－6	教育課程の改善のための取り組みが行われているか	5

【現状と課題】

新入生はプレイスメントテスト（筆記試験とインタビュー）により、クラスを分けている。その後は授業中のテスト、定期テスト、担当全教員からの評価、個別面談、出席率により成績評価、進級、修了を決定している。

教育理念である国際交流による相互理解、また、日本文化や現代社会等に対して理解を深めるための日本文化体験（浴衣、七夕、書道、茶道、華道、料理交流会等）を行ってきたが、昨年度はコロナウイルス感染症予防のため行事が少なくなってしまった。今後は感染症対策を行いながらの文化体験を工夫していきたい。

各クラスにおいての目標を明示した上で、それぞれの学生の目標（JLPT、EJU、受験等）に合わせて指導している。

新任教員には教案提出や授業見学により指導を行っており、その期間は長ければ1年以上になる。しかしながら、経験の長い非常勤教員への指導力向上への取り組みは十分とは言えないのが現状である。経験の長さに関わらず、授業見学をする、勉強会を開く等、検討して

いきたい。

4	学修成果	評価
4－1	学生の日本語能力の向上が図られているか	5
4－2	学生の日本語能力が機関が定める到達目標に達しているか	4
4－3	学生の進路を適切に把握しているか	5

【現状と課題】

カリキュラムに沿って授業を進めているが、希望者にはプラスアルファの課題を渡したり、授業に遅れ気味だと感じる学生には復習課題を渡したりと個別に能力を伸ばす努力をしている。

学生の日本語能力はほとんどの学生が到達目標に達している。特に昨年度はコロナウイルスによる休校分の授業を長期休み等を調整することによりすべてカバーすることができた。その結果、進学希望者全員が進学することができ、日本語能力試験（JLPT）の合格率も高かった。

学生の進路は合格通知、入学許可書、学生からの報告をもとにまとめられている。

今年度は、コロナウイルス感染症の影響で入国が大幅に遅れた学生達の指導に力を入れたい。

5	学生支援	評価
5－1	学生に対する学習相談や進路に対する支援体制が整備されているか	5
5－2	健康管理体制が整備されているか	5
5－3	生活指導の支援体制が整備されているか	5
5－4	防災や緊急時における体制が整備されているか	4

【現状と課題】

3 か月に 1 度の個人面談時以外にもいつでも学生が学習相談、進路相談ができる体制が整っている。特に専門学校への願書提出の準備をする 8 月には個別に時間を設けて支援を行っている。また、見学希望の多い学校へは専任教員が引率を行っている。受験後にはアンケートを実施しており、その情報は受験校を決める際の参考になっている。

本学院は愛心会グループの保土ヶ谷クリニックと契約をしており、年 1 回の健康診断や診療が安心して受けられ、本学院の専任教員に看護師資格を有するものもいる。日本語能力の低い学生、または必要があると判断した場合には教職員が病院へ引率し、学生の健康状態の把握に努めている。学生は全員、国民健康保険に加入している。コロナ禍である現在、学生には毎日の検温、手のアルコール消毒、マスクの着用、校内の食事禁止を徹底している。室内は換気、消毒をし、ビニールシートでの仕切り、加湿器を設置した。保健所からは濃厚接触者との認定は受けていないが陽性者と接触をしたとの報告があった学生 2 名には PCR 検査を受けてもらい、陰性を確認した。幸い、今まで 1 名の陽性者も出ておらず、今後も感染予防対策を徹底させていきたい。

本学院では今年度より生活指導を主な業務とする担当者を配置し、生活指導に力を入れている。家庭訪問をし、通学路や家周辺の安全確認や生活に心配な要素はないかを確認している。希望者は本学院所有の学生寮に入ることができる。アルバイト先についても詳しい聞き取り、指導を徹底し、オーバーワークを未然に防ぐ努力を続けている。

年に 1 度の防災訓練では、本学院作成の防災資料を使用し、備蓄品、非常持ち出し品の紹介と使い方指導、身の守り方、DVD 視聴、避難訓練による避難場所確認を行っている。緊急時の連絡体制については、検討が必要である。

6	教育環境	評価
6 － 1	施設・設備が十分かつ安全に整備されているか	4
6 － 2	教材は適切か	5
6 － 3	学修効率を図るための環境整備がなされているか	5

【現状と課題】

前年度、東京出入国在留管理局の指導に従い、教室、トイレ、図書室、保健室を整備し直した。少人数制で 1 クラス 10 名前後に絞っており、語学習得の教育環境としては望ましい。教材は各レベルで決められた主教材に加え、そのクラスの実情に合わせた副教材を担任が決めている。また、使用教材の再考、新しく出版された教材の検討も常に行っている。

近年の学習環境の変化に伴い、各教室で Wi-Fi 環境も整えたが、各学生に PC 等の機器を配布するところまではできておらず、今後の課題である。

7	入学者の募集	評価
7－1	入学者の募集は適切に行われているか	5
7－2	教育機関の情報は正確に伝えられているか	5
7－3	授業料等は適切か	5

【現状と課題】

入学者の募集についてはホームページとパンフレットに最新情報を正確に伝えている。また、海外の募集代理人とは業務委託契約を結び、業務委託内容を明確にし、メール等で連絡を取り合っている。入学者の選考については書類審査と面接を行っている。募集担当者が現地に向かい、入学希望者のみではなく保護者とも面接をすることにより、お互いの情報を正確に共有するとともに厳密な審査ができていたが、昨年度は Skype と Zoom を使っての面接となった。コロナ禍において今後の入学者の募集については検討が必要である。

8	財務	評価
8－1	中長期的に財務基盤は安定しているか	4
8－2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8－3	財務について会計監査は適切に行われているか	4
8－4	財務情報の公開の体制はできているか	2

【現状と課題】

NPO 法人愛心国際交流協会と財務的な連携をとることにより、中長期的に財務基盤は安定しているが、コロナウイルス感染症拡大による入国規制の影響は否めない。財務情報の公開は現在検討中である。

9	法令順守	評価
9－1	出入国管理及び難民認定法及び各種関係法令等の順守と適切な運営がなされているか	4
9－2	個人情報の保護への取り組みがなされているか	4
9－3	自己点検の実施と改善及びその公開を適切に行っているか	5

【現状と課題】

出入国管理及び難民法認定及び各種関係法令等を遵守するようオリエンテーションの際に厳しく指導を行っている。また、在学中も学生の情報を収集し指導を徹底している。前年度、東京出入国管理局への報告遅れがあり、ご指導の下、全ての変更について届け出をした。

個人情報の取り扱いについては教員は採用時の就業規則で、学生はオリエンテーションで説明をしている。写真等の掲載については書面にて許可を得た学生のみ公開している。書類、PC の個人情報は漏洩がないようセキュリティを強化する必要がある。

自己点検は年に 1 回実施しており、今年度よりホームページ上で公開を始めた。

10	地域貢献	評価
10－1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献をおこなっているか	2

【現状と課題】

以前は介護施設へ出向き、各国の歌やダンス、演奏を披露したことがあったが、昨年度はできなかった。今年度は空き教室を利用しての講座開講、ボランティア活動への参加もしていきたい。また、これまでは留学生をメインに日本語教育を行ってきたが、今後は地域の外国につながる子どもたちとその家族、介護・看護従事者等への日本語教育を通じての社会貢献もできるよう検討中である。